



hina no marebito のまれびと

1億を稼ぐがトラブルが絶えない横山やすしを担当し、約束を守らないで携帯電話のない時代、正妻と愛人、行きそうな店の電話番号を全部

今夏、「お笑い芸人による闇営業問題」が茶の間を賑わし、テレビも連日その経緯を取り上げた。大谷由里子がコメンテーターとして4日で10本のワイドショーへ出演したのは昭和60年4月から3年間、吉本興業に勤め「伝説の女マネージャー」と呼ばれたからだ。

「男女雇用均法施行前、女子の就職は土砂降りだった。吉本は男社会で入社早々、『お前がボケツと座つても、吉本は1円の得にもならん』と叱られながら陽転思考と気合いと根性で仕事を覚えた」。新人でいきなり年

生涯「人を育てる」

志縁塾主宰 大谷由里子氏 (56)

おたに ゆりこ



記憶。やすし・きよしの仕事の決定権は初代マネージャー木村政雄(後の常務)にあったが、横山から「わしと仕事がしたかったら、すべて松岡(大谷の旧姓)に言え」と言われるまでになる。その横山は相方の西川が選挙に立候補すると漫才ができなくなると荒れて痛飲。よみうりテレビ「爆笑クイズQ&A」で片岡鶴太郎からんだため、「いい加減にしてください」と言つて平手で殴打。無名だった宮川大助・花子のマネージャーを兼務するとプロデューサーを任された『花王名人劇場』で二人をメインに抜擢。翌年、上方漫才大賞、花王名人大賞名賞の二冠に導いた。

結婚退職後、2年間の専業主婦で子供と2人だけの生活に飽きて会社を起業。吉本の元上司に声を掛けられ、「吉本印天然素材プロジェクト」の立ち上げに参加。ナインティナインや雨上がり決死隊を育てた。自分の会社で吉本の体験を社員に話しても理解されな

い。コーチングを習い『叱る』から『聴く』『任せる』に変えると社員が成長。自ら講師を務めたコーチング講座の依頼が増え、大阪で講師塾を初めとする「志縁塾」を開設(現在は東京)。塾生は延べ1800人を数え、「全国講師オーディション」へと広がり、プロ講師を多数輩出。現在、第10回の講師オーディションがWeb予選中で本戦は12月1日イイノホール。来年2月11日は同ホールで「初笑い世界を学ぼう!世界を笑おう!大谷由里子×ザ・ニュースペーパー(番外編)」を開催。

大谷は50歳で法政大学大学院へ入学、53歳で修了。バイタリティーの源泉を尋ねると「人生、壁の向こうは壁。山の向こうは山、草原があると思つたら大間違い」だと。「最初の壁を越え、家族が元気なら、日本が平和なら、世界が平和ならと考えれば小さいことが気にならなくなる」とのこと。彼女の壁越えは止まらない。

〈文中敬称略〉